

令和6年度

青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、令和6年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月5日(火)に実施し、6,837人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には16点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、社会が1.4点、数学が0.7点、理科が8.3点、英語が3.9点上回り、国語が1.1点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「令和6年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%								
100	1	0.0	10	0.1	10	0.1	57	0.8	14	0.2
90～99	155	2.3	304	4.4	185	2.7	527	7.7	484	7.1
80～89	1,000	14.6	686	10.0	788	11.5	759	11.1	703	10.3
70～79	1,773	25.9	942	13.8	993	14.5	857	12.5	805	11.8
60～69	1,700	24.9	1,202	17.6	1,059	15.5	1,083	15.8	918	13.4
50～59	1,119	16.4	1,245	18.2	1,075	15.7	1,218	17.8	902	13.2
40～49	605	8.9	1,089	15.9	872	12.8	1,017	14.9	967	14.1
30～39	289	4.2	720	10.5	733	10.7	705	10.3	854	12.5
20～29	132	1.9	425	6.2	565	8.3	417	6.1	785	11.5
10～19	51	0.7	195	2.9	398	5.8	175	2.6	357	5.2
0～9	9	0.1	16	0.2	156	2.3	19	0.3	45	0.7
0(再掲)	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
全教科受検者数	6,834	100.0	6,834	100.0	6,834	100.0	6,834	100.0	6,834	100.0
平均点	64.8		57.1		54.3		58.9		54.5	
標準偏差	15.5		19.7		22.4		20.9		23.0	
最高点	100		100		100		100		100	
最低点	0		2		0		4		5	
前年度平均点	65.9		55.7		53.6		50.6		50.6	

*得点一覧表の各教科の値(%)は、全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

国 語

①の放送による検査は、代表者会議の話し合いを資料を見ながら聞き、内容について捉える力、聞き取った内容をもとに、条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は、「代表者会議の目的」について聞き取る問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、「今後、町内会の方と相談していききたいこと」について聞き取る問題である。「種類を増やす」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約7割であった。(3)は、司会の会議の進め方の説明として適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(4)は、ポスターのキャッチコピーを考えて書く問題であり、正答率は約7割であった。話の展開に注意して、要点を整理しながら聞き取る力を伸ばしていくことが重要である。

②は、漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約6割であり、誤答として、オ「こと(に)」を「とく(に)」、「しゅ(に)」などと読んだものが多かった。書字の正答率は約7割であり、誤答として、ク「縦断」を「従断」「縦横」などと書いたものが多かった。文脈に合わせて正確に意味を判断し、適切な漢字を用いる力を養うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることが大切である。(2)は、漢字の行書の特徴を理解して楷書と使い分ける力をみる問題であり、正答率は約9割であった。

③は、『説苑(ぜいえん)』と『枕草子』からの出題である。(1)アは、漢文のきまりに従って返り点をつける問題であり、正答率は約6割であった。訓読に必要な基礎的な事項を理解する力を高めることが必要である。(1)イは、文脈における主語に当たる人物を選ぶ問題である。本文の内容とは異なる「2」を選んだ誤答が多く、正答率は約6割であった。(1)ウは、文章の展開に即して内容をまとめる問題である。「常に進む」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約2割であった。条件に即して適切に表現する力を育成することが一層求められる。(2)アは、歴史的仮名遣いを読む力をみる問題であり、正答率は約9割であった。(2)イは、文章の展開に即して内容を捉え、「夜」について述べたものとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。文章の構成や展開に着目して内容を捉える力をより高めることが重要である。

④は、額賀滯(ぬかが みお)の『ラベンダーとソプラノ』からの出題である。(1)は、「言う」の尊敬語を答える問題であり、正答率は約9割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は約8割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、「悪あがきをするように」という表現についてまとめる問題である。「朔のもとに走った」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約2割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、「朔」について述べたものとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(5)は、文章の内容を捉えて、「真子」が気付いたことについてまとめる問題である。「どっちも持っていていい」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は1割を下回った。文章の構成や展開、表現の仕方について考え、登場人物の言葉や行動に着目しながら文章を読むことが大切である。

⑤は、八木沢敬(やぎさわ たかし)の『ときは、ながれない』からの出題である。(1)は、品詞についての理解をみる問題であり、正答率は約5割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は約9割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄

に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は約9割であった。(5)は、文章に表れているものの見方や考え方を捉える問題である。Aは、「特定の仮説をたてる」ことの例についてまとめる問題であるが、「仮定する」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約2割であった。Bは、「時間」についてまとめる問題であるが、文脈に即していない表現でまとめている誤答が多く、正答率は約2割であった。(6)は、文章の展開に即して内容を捉え、文章について述べたものとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。文章に表れているものの見方や考え方について、書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力を伸ばしていくことが重要である。

〔6〕は、外国語指導助手と生徒のやりとりから読み取った内容をもとに、意見文を書く問題である。3人のやりとりをもとに日本語の会話について気付いたことを書いた上で、それを踏まえて自分の意見を書く、という条件に即して論理的に文章を書く力が求められる。気付いたことを踏まえた意見が書かれていなかったために減点されているものが多かった。文章から読み取った内容について自分の考えをもち、その考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫して書くことが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)						
〔1〕	(1)	4	放資料を見開く	話の内容と資料との関連を考えて聞き取る。	70.6	〔4〕	(1)	4	文学的	敬語について理解する。	86.2		
	(2)	4	話の内容を的確に聞き取る。	65.3	(2)		4	文章の展開に即して内容を捉える。	84.3				
	(3)	4	話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。	82.5	(3)		4	文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	18.4				
	(4)	4	発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる。	65.4	(4)		4	文章の展開に即して内容を捉える。	80.1				
〔2〕	(1)	ア	1	読	常用漢字を読む。	寸暇	65.4	〔5〕	説明的	(1)	4	品詞について理解する。	49.5
		イ	1			峡谷	44.2			(2)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	66.8
		ウ	1			均衡	86.8			(3)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	89.8
		エ	1			眺める	99.4			(4)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	86.7
		オ	1			殊に	17.3			(5)	A	2	文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。
	カ	1	書	登録	66.5	B	4	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	20.6				
	キ	1		破損	65.8	(6)	10		を意	外国語指導助手と生徒のやりとりから読み取った内容を	平均点		
	ク	1		縦断	63.0		6	6	文章の展開に即して内容を捉える。			75.3	
	ケ	1		筋道	67.4								
	コ	1		済ます	80.8								
	(2)	2	書	漢字の行書の特徴を理解して楷書と使い分ける。	92.0								
	〔3〕	(1)	ア	2	漢文を読む	漢文のきまりに従って返り点をつける。	62.9						
			イ	4		文章の展開に即して内容を捉える。	59.7						
ウ			4	文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。		17.7							
(2)		ア	2	古文を読む	歴史的仮名遣いについて理解する。	89.8							
		イ	2		文章の展開に即して内容を捉える。	76.3							

社 会

①は、地図の活用や世界の諸地域の特色に関する問題である。(3)イは、オーストラリアの気候帯についての理解をみる問題であり、正答率は約6割であった。誤答は、「熱帯」、「温帯」、「冷帯」など多岐にわたった。各国の位置と人々の生活や環境を関連付けて捉えることが大切である。(4)は、標準時子午線を用いて航空機の飛行時間について思考する問題であり、正答率は約4割であった。生活場面と結び付けて時差の概念を理解できるようにすることが大切である。地図や資料を活用する地理的スキルを身に付けるとともに、世界の地域構成の特色を様々な視点から捉えることが大切である。

②は、東北地方、関東地方の地域的的特色に関する問題である。(3)は、再生可能エネルギーを使った主な発電所についての理解をみる問題であり、正答率は約6割であった。資源やエネルギーの大量消費に伴う環境問題やエネルギー問題と、風力発電や太陽光発電などの新しいエネルギーの開発に努力していることなどを関連付けて捉えることが大切である。(5)アは、白菜、ほうれんそう、きゅうり、かぶの生産量の県別割合について述べた文として適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「3」や「4」を選んだものが多かった。地形や気候などの地域的的特色について、そこに暮らす人々の生活や産業などと関連付けて捉えることや、資料から正確に情報を読み取る力を高めていくことが大切である。

③は、中世から近世までの時代の特色に関する問題である。(2)アは、禅宗の宗派として適切なものを選び、その開祖を答える問題であり、正答率は1割を下回った。室町文化が禅宗の影響を受けていることと鎌倉時代に生まれた新しい仏教に対する理解が十分ではなく、それらを関連付けて思考・判断することができなかつたと思われる。(3)イは、資料から大政奉還について読み取り、その内容を与えられた条件に即して適切に表現する問題であり、正答率は約6割であった。中世から近世までのそれぞれの時代の特色を大きく捉え、政治の展開、社会の様子、文化の特色など、他の時代との共通点や相違点に着目して、多面的・多角的に考察することが大切である。

④は、近代、現代の日本の外交に関する問題である。(2)は、明治時代の東アジアの国際関係を表した資料を年代の古い順に並べ替える問題であり、正答率は約2割であった。明治時代の国際情勢についての知識と資料から読み取った情報を関連付けることができなかつたものと思われる。(5)イは、サンフランシスコ平和条約の発効により日本が独立を回復した後の外交の様子について述べた文として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。歴史に見られる国際関係や文化交流について理解し、日本と諸外国の歴史や文化がどのように関わっているかを考察できるようにすることが大切である。

⑤は、国際社会の仕組み、民主政治と政治参加に関する問題である。(1)イは、主権国家の領域についての理解をみる問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「3」が多くみられた。領土については、地理的分野や歴史的分野などの学習の成果と関連させて理解することが大切である。(3)は、ある生徒が考えた政策提言が、政策を判断するための座標軸のどこに位置するか思考・判断する問題であり、正答率は約7割であった。主権者としての政治参加の在り方について考察、構想し、表現できるようにすることが大切である。

⑥は、生活と経済に関する問題である。(1)イは、クーリング・オフ制度についての理解を問う問題であり、正答率は約8割であった。(2)イは、公債の発行を慎重に行う必要があるのはなぜか、表現する問題で

あり、正答率は約3割であった。無解答が多く、誤答は、「経済の立て直しが難しくなる」、「さらに国債が増えてしまう」、「銀行が倒産してしまう」など多岐にわたった。財源の確保と配分、財政の現状や少子高齢化など現代社会の特色を踏まえて、財政の持続可能性と関連付けて考察することが大切である。

7は、ロゴ、マーク、ラベルについてまとめた資料をもとに、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の知識・理解を総合的にみる問題である。(2)は、マイクロクレジットについての理解をみる問題であり、正答率は約6割であった。政府開発援助をはじめとする日本の国際貢献や貧困の解消に向けた取組を具体的に理解できるようにすることが大切である。(4)アは、温室効果ガスの排出削減に関する国際的な取り決めについての理解をみる問題であり、正答率はいずれも約7割であった。環境汚染や自然破壊が地域や国家の問題であるとともに、地球規模の問題となり、国際協力の重要性が高まる中で、日本の貢献が期待されていることを理解できるようにすることが大切である。

社会では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、問われている内容を正しく理解した上で、資料から必要な情報を読み取る力、知識や資料を関連付けて、思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	(1)	2	世界 南極大陸	91.5	4	(1)	2	近代・現代の日本 西郷隆盛	65.1
	(2)	2	鉄鉱石の産出地	63.6		(2)	3	明治時代の東アジアの国際関係	19.6
	ア	2	APEC	59.2		(3)	3	国際連盟の影響力が大きくなかった理由	19.6
	イ	2	オーストラリアの気候帯	55.4		(4)	2	ワシントン海軍軍縮条約	29.2
2	ウ	3	カナダ、チリ、オーストラリア、フィリピン、韓国の人口密度、GDP、日本への主な輸出品	38.0	ア	2	サンフランシスコ平和条約に調印しなかった国	78.7	
	(4)	3	東京からベキンまでの飛行時間	43.1	イ	3	サンフランシスコ平和条約調印後の日本の外交	48.4	
	(1)	2	日本 白神山	92.4	ア	2	国際社会の仕組	93.9	
	(2)	2	潮境	84.5	イ	2	主権が及ぶ範囲	44.5	
3	(3)	2	再生可能エネルギーを利用した発電所	60.7	ウ	2	国連総会	30.9	
	(4)	3	東北地方で伝統的工芸品が生産されてきた背景	71.8	ア	2	議会の解散	65.5	
	ア	3	野菜の生産量の県別割合	38.0	イ	2	内閣総理大臣の選出方法	25.2	
	イ	3	関東近県で行われる近郊農業の特徴	75.2	ウ	2	地方公共団体の首長の選出方法	70.0	
4	(1)	2	中世・近世の日本 摂関政治	81.7	(3)	2	大きな政府と小さな政府・多様性と画一性の2軸の循環による政策の検討	74.9	
	イ	2	平安時代の社会	53.7	(1)	ア	2	生活と経済 契約が成立するタイミング	33.8
	(2)	3	室町文化に影響を与えた仏教	7.1	イ	2	クーリング・オフ制度	78.1	
	イ	2	足利義政	37.1	ア	2	国の一般会計の歳入	77.5	
5	(3)	3	江戸幕府成立から滅亡までに世界で起こった出来事	40.8	イ	3	公債を慎重に発行しなければならない理由	29.9	
	イ	3	徳川慶喜が二条城で伝えた決意	62.5	(3)	2	公衆衛生	53.7	
	(1)	2	近代・現代の日本 西郷隆盛	65.1	(4)	3	市場経済の公正さを確保するための政府の役割	72.2	
	(2)	3	明治時代の東アジアの国際関係	19.6	(1)	2	にロゴ・ラベルに関する問題 NGO	60.7	
6	(3)	3	国際連盟の影響力が大きくなかった理由	19.6	(2)	2	マイクロクレジット	60.7	
	(4)	2	ワシントン海軍軍縮条約	29.2	(3)	3	1973年以前の日本の様子	32.8	
	ア	2	サンフランシスコ平和条約に調印しなかった国	78.7	ア	2	京都議定書	73.9	
	イ	3	サンフランシスコ平和条約調印後の日本の外交	48.4	イ	2	パリ協定	74.9	
7	ア	2	国際社会の仕組	93.9	イ	2	持続可能な社会	88.9	
	イ	2	主権が及ぶ範囲	44.5					
	ウ	2	国連総会	30.9					
	ア	2	議会の解散	65.5					

数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)の正答率は約8割であり、数と式についての基本的な計算に対する知識や技能は定着していると思われる。(2)は、数直線上で、3からの距離が4である数を答える問題であり、正答率は約7割であった。(3)は、無作為に取り出したクリップの個数から、箱の中に入っているクリップの個数を求める問題であり、正答率は約7割であった。(4)は、多項式を展開する問題であり、正答率は約6割であった。(5)は、関数 $y = x^2$ の値の変化を考える問題であり、正答率は a が約7割、 b が約3割であった。グラフの対称性や頂点に関する理解が十分ではなかったと思われる。(6)は、2つの合同な三角形でつくられる角の大きさを求める問題であり、正答率は約8割であった。(7)は、ことがらの逆が正しくない場合の反例を答える問題で、学習指導要領改訂に伴い、新たに学習することになった内容に関する出題であり、正答率は約4割であった。誤答は多岐にわたり、反例の意味を適切に理解できなかったと思われる。(8)は、二元一次方程式について述べた文として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては「ウ」を選んだものが多く、一次関数と二元一次方程式のグラフの関連性を正しく理解できなかったと思われる。

②は、度数の分布や連立方程式についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)アは、度数分布表から中央値が含まれる階級を求める問題であり、正答率は約8割であった。データの代表値に対する基本的な知識は定着していると思われる。(1)イは、度数分布表から読み取れることとして適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。(2)アは、生徒の会話を読み取り、適切な式や数を答える問題であり、正答率は㊸、㊹がそれぞれ約7割、㊺が約4割であった。道のりや速さ、時間の関係性を整理できなかったと思われる誤答が多く見られた。(2)イは、与えられた条件から連立方程式をつくり解を求める問題であり、正答率は約3割であった。時間を道のりと速さを用いて表すことは理解しているが、時間に着目した方程式をつくることができなかったと思われる。

③は、図形について、数学的に考察する過程で見通しを立てて思考・判断し、的確に表現する力をみる問題である。(1)アは、線分の長さを求める問題であり、正答率は約6割であった。(1)イは、円錐の展開図の側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める問題であり、正答率は約4割であった。おうぎ形の弧の長さを中心角の大きさの関係性を適切に捉えることができなかったと思われる。(1)ウは、円錐の側面に沿ってかけられた糸が最短となるときの長さを求める問題であり、正答率は1割を下回った。おうぎ形の中心角における外角を用いて直角三角形をつくることの理解が十分ではなかったと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、1組の三角形が相似であることを証明する問題であり、正答率は㊸が約7割、㊹が約6割、㊺が約5割であった。証明する上で、仮定をもとに対応する角を正確に捉えることができなかったと思われる。(2)イは、線分の長さを求める問題であり、正答率は1割を下回った。いくつかの仮定や条件を正しく組み合わせて線分の長さを導くことができなかったと思われ、無解答が多かった。図形がもつ性質を多面的に捉える力を育成することが一層求められる。

④は、関数や図形についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、点Aのy座標を求める問題で、正答率は約8割であった。式に値を代入する基本的な技能は定着していると思われる。(2)は、線分の長さを求める問題で、正答率は約5割であった。座標軸に平行な直線を

用いて直角三角形をつくることができなかつたと思われる。(3)アは、点 C の座標を求める問題であり、正答率は約 4 割であった。三角形の面積に着目した方程式をつくることができなかつたと思われる誤答が多かつた。(3)イは、点と直線との距離を求める問題であり、正答率は 1 割を下回つた。点 A と直線 BC 上の点を結ぶ線分のうち、最も短い線分の長さが求めたい距離であることが理解できていなかつたと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。

⑤は、数学の授業で学んだことを振り返り、正多角形の対角線の本数を式で表す過程を考えたり、その考え方を身近な事象と関連付けて試合数の求め方に応用して二次方程式をつくり、その過程で数学的な見方・考え方を働かせて事象を数学的に処理し、解決する力をみる問題である。(1)アは、正五角形の対角線の本数を求める問題であり、正答率は約 8 割であった。式に値を代入する基本的な計算技能は定着していると思われる。(1)イは、正 n 角形のときの対角線の本数を式で表す過程を考える問題であり、正答率は約 3 割であった。分子にある二次式が何を表しているのか適切に捉えられなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(2)アは、人数と試合数の関係を考える問題であり、正答率は㊸が約 6 割、㊹が約 4 割であった。例示された 5 人の選手の試合数の求め方と関連付けて考えることができなかつたと思われる。(2)イは、試合数が 66 試合の場合、選手の人数は何人か求める問題であり、正答率は約 3 割であった。正多角形の対角線の本数の求め方を試合数の求め方に応用するとき、適切な条件整理ができなかつたと思われる。解決過程や結果から得られる複数の条件の中で、必要な情報を読み取って思考・判断し、表現することで、日常生活の中で数学を活用する力を伸ばしていくことが重要である。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけでなく、数量や関数、図形、データの活用などに関して基礎となる原理や法則についての理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)				
①	(1)	ア	3	数と式	③	図形	母線の長さ	62.8			
		イ	3				おうぎ形の中心角	42.2			
		ウ	3				糸の最短距離	1.0			
		エ	3				三角形の相似の証明	69.8			
		オ	3					61.2			
	(2)	4	数と式	絶対値と数の大小	71.4	④	関数	相似な三角形の辺の比	6.6		
	(3)	4	データの活用	標本調査	71.8			(1)	2	放物線上の点の y 座標	84.0
	(4)	4	数と式	式の展開	62.9			(2)	3	線分の長さ	51.8
	(5)	2	関数	関数 $y = x^2$ の変域	33.1			ア	3	点の座標	38.8
	(6)	4			図形			角の大きさ	76.8	イ	4
(7)	4	数と式	反例	42.5	⑤	数と式	文字式と二次方程式の利用	80.0			
(8)	4	数と式	二元一次方程式	39.5				(1)	2	29.2	
②	(1)	データの活用	中央値が含まれる階級	80.1				ア	2	64.5	
			度数分布表	66.5				イ	3	36.2	
	(2)	数と式	連立方程式	㊸				2	67.4	㊹	3
				㊺	2	65.3					
				㊻	2	42.3					
				㊼	2	28.7					
				イ	3						

理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、脊椎動物についての理解をみる問題で、正答率は9割を超えた。(1)イは、身近な動物の共通する特徴を選ぶ問題で、正答率は約9割であった。(2)アは、アメーバと同じふえ方をする生物を選ぶ問題で、正答率は約8割であった。(2)イは、アメーバの親と子の形質が同じになる理由について表現する問題で、正答率は約7割であった。(3)は、夏の季節風が吹く仕組みに関する問題で、正答率は約6割であった。(4)アは、地球から見た金星と火星の見え方を選ぶ問題で、正答率は約6割、(4)イは、木星型惑星と比較したときの地球型惑星の特徴について表現する問題で、正答率は約8割であった。生物的・地学的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると考えられ、これをもとに理科の見方・考え方を養い、それらを働かせて科学的に探究していくことが大切である。

②は、化学・物理分野の小問集合である。(1)アは、水の状態変化についての理解をみる問題で、正答率は約6割、(1)イは、物質の状態について表現する問題で、正答率は約8割であった。(2)アは、水の電気分解において水酸化ナトリウム水溶液を加える理由について表現する問題で、正答率は約8割、(2)イは、陰極と陽極から発生した気体についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(3)アは、音の性質についての理解をみる問題で、正答率は約6割、(3)イは、音の振動数を求める問題で、正答率は約3割であった。横軸の目盛りをそのまま読み取った「4 Hz」など、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(4)アは、作図から輪ゴムを引く力の合力を求める問題で、正答率は約5割であった。(4)イは、基準線と糸のなす角度を保ったまま、もう一方の糸の角度を変えたときに、各糸にかかる力の変化について結果を選ぶ問題で、正答率は約2割であった。誤答としては「3」を選んだものも多く、力の合成や分解の規則性について理解できていなかったものと思われる。化学的・物理的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、科学的な見方や考え方を働かせ、結果を分析して解釈する力を養っていく必要がある。

③は、植物の働きに関する問題である。(1)アは、顕微鏡の倍率を求める問題で、正答率は約8割であった。(1)イは、温めたエタノールにオオカナダモの葉を入れる実験操作について表現する問題で、正答率は約7割であった。(1)ウは、光合成が行われる場所と、光合成によってつくられる物質についての理解をみる問題で、①、②の正答率はそれぞれ約9割、7割であった。(2)アは、酸素の濃度と二酸化炭素の濃度の変化を光合成と関連付け、比べる袋の組み合わせを思考・判断する問題で、正答率は約8割であった。(2)イは、実験の結果から、酸素の濃度が増加し、二酸化炭素の濃度が減少した理由について思考・表現する問題で、正答率は約4割であった。誤答としては「光合成により酸素を排出し、呼吸により二酸化炭素を排出するから」といった記述が多く、多岐にわたっていた。

④は、酸とアルカリの反応に関する問題である。(1)アは、BTB溶液についての理解をみる問題で、正答率は約8割であった。(1)イは、水溶液中に最も多く含まれるイオンを化学式で表す問題で、正答率は約2割であった。「H⁺」など、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。それぞれの水溶液の電離や、中和反応の際に水素イオンと水酸化物イオンが反応して水分子ができることを関連付けて思考・判断することができなかったと思われる。(1)ウは、水酸化ナトリウム水溶液を加えた後、中性に戻すために必要な塩酸の体積を求める問題で、正答率は約3割であった。加える体積ではなく、塩酸の全体積である「8 cm³」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、白い沈殿である硫酸バリウムを化学式で

表す問題で、正答率は約4割であった。解答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)イは、グラフと条件を関連付けて、生じた硫酸バリウムの質量を求める問題で、正答率は約2割であった。与えられたグラフの中で硫酸バリウムの質量が一定となっている「0.24g」をそのまま解答するなど、解答は多岐にわたり、無解答も多かった。実験等の条件と結果を関連付けながら思考・判断し、数値を的確に処理することができなかつたと思われる。

⑤は、電圧と電流の関係について調べる実験に関する問題である。(1)アは、電圧計の+端子を選ぶ問題で、正答率は約7割、(1)イは、抵抗器に加わる電圧と抵抗器を流れる電流の関係をグラフで表す技能に関わる問題で、正答率は約9割であった。(1)ウは、抵抗器に加える電圧を2倍にしたときに消費される電力を求める問題で、正答率は約3割であった。誤答としては「2」を選んだものが多く、電圧と電流の関係について理解できていなかったものと思われる。(2)アは、直列につないだ抵抗器と、並列につないだ抵抗器の抵抗の大きさを求める問題で、正答率はそれぞれ約4割であった。直列回路や並列回路の合成抵抗と、個々の抵抗の関係を理解できていなかったものと思われる。(2)イは、直列回路と並列回路の電力と電力量の関係から、並列回路に電流が流れた時間を求める問題で、正答率は約2割であった。誤答は多岐にわたり、無解答も多く、電力量について規則性を見いだすことができなかったものと思われる。

⑥は、大地の活動に関する問題である。(1)アは、断層についての理解をみる問題で、正答率は約7割、(1)イは、日本海溝付近のプレートについて表現する問題で、正答率は約5割、(1)ウは、液状化についての理解をみる問題で、正答率は約9割であった。(2)アは、マグニチュードについての理解をみる問題で、正答率は約8割であった。(2)イは、地震の発生時刻を求める問題で、正答率は約5割であった。(2)ウは、初期微動継続時間を求める問題で、正答率は約4割であった。震源からの距離と初期微動継続時間の関係性を理解できていなかったものと思われる。誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 理 科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
①	(1)	ア 2	動物の種類	95.9	④	(1)	ア 2	酸とアルカリの反応	B T B溶液の色	84.9		
		イ 3	動物の分類の特徴	93.4			イ 3		水溶液中に最も多く含まれるイオン	19.1		
	ウ 3	動物の分類の特徴	93.4	ウ 3			中性にするために必要な塩酸の体積		32.0			
	(2)	ア 2	無性生殖	81.4		ア 3	硫酸バリウムの化学式	39.1				
イ 3		アメーバの親と子の形質	65.6	イ 4	硫酸バリウムの質量	21.8						
(3)	3	日本の天気の特徴	59.3	⑤	(1)	電圧と電流の関係	ア 2	電圧計のつなぎ方	68.3			
(4)	ア 2	太陽系の惑星の特徴	59.7				ウ 3	電圧と電流の関係を表すグラフ	85.5			
	イ 3	地球型惑星の特徴	78.8				ア B 2	消費される電力	31.9			
②	(1)	ア 2	状態変化				57.9	ア D 2			直列・並列回路の抵抗	36.6
		イ 3	物質の状態	80.8	イ 3	電力と電力量の関係	19.7					
	(2)	ア 2	水の電気分解	79.0	⑥	(1)	大地の活動	ア 2	断層	66.0		
		イ 3	電極から発生する気体の名称	67.4				イ 3	日本海溝付近のプレート	45.8		
(3)	ア 2	音	63.6	ウ 3				液状化	88.3			
	イ 3	音の振動数	32.8	ア 3				マグニチュード	79.7			
③	(4)	ア 2	力の合成	47.0	(2)			イ 3	地震の発生時刻	49.4		
		イ 3	力の合成と分解の規則性	16.5				ウ 3	初期微動継続時間	43.8		
	(1)	ア 2	光合成と呼吸	顕微鏡の倍率				80.2				
		イ 3		温めたエタノールに入れる理由				66.4				
ウ	① 2	葉緑体	87.1									
	② 2	デンプン	73.6									
(2)	ア 3	対照実験	84.3									
	イ 3	植物の働きと気体の出入りの関係	42.4									

英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語による説明と質問を聞いて適切な絵や表現を選ぶ問題で、正答率は、アが約9割、イが約6割、ウが約8割であった。(2)は、美術館の館内放送を聞いて、その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ問題で、正答率は、アが約5割、イが約6割、ウが約2割であった。ウは、英文を部分的に聞き取ったと思われる誤答が多く見られた。解答に必要な情報が英文中の複数箇所にとんでいることにより、全ての情報を聞き取ることが難しかったと思われる。特に時間や場所等の詳細な情報について、一部だけでなく全体の内容をバランス良く聞き取る必要がある。(3)は、対話を聞いて、その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ問題で、正答率は、アが約9割、イが約7割であった。(4)は、外国語指導助手の話をして聞いて、質問に対する自分の考えを適切に英文で表現する問題である。誤答としては、動詞や目的語などの必要な語が不足していることにより、英文として成立していないものも多く見られた。問いの内容を正しく理解した上で、自分の考えを適切に英語で書く力を高めていく必要があると思われる。

②は、二人の生徒による、「相手を知ることの大切さ」についての対話を題材とした問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語句を並べ替える問題であり、正答率は、アが約5割、イ、ウがそれぞれ約6割であった。アは、「to 不定詞の副詞的用法」を問う問題である。基本的な文構造や品詞への理解が十分ではないと思われる誤答が多かった。イは、「主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞」を問う問題である。「send」の位置の誤りが多く、品詞や文法の理解が十分ではなかったためと思われる。ウは、基本的な文構造及び「助動詞」を問う問題である。「don't have to」が定着していないことによる誤答が多かった。(2)は、対話の流れから、空欄に入る適切な語を選ぶ問題で、正答率は約5割であった。正解となる「Simple」と反対の意味を持つ「Difficult」を選択した誤答が最も多く、空欄を含む文の「enough」という語への理解が不足していたと思われる。(3)は、日本語で書かれたメールの内容の一部を英文で書く問題である。1では、「to Aomori」や「in winter」のような前置詞句が不足しているものや、「if 節における時制の用法」が定着していないと思われる誤答が多かった。2では、「What do you interested in it?」や「What are you interesting?」のように、「be interested in」という表現を正しく理解していないことによる誤答が多かった。基本的な文法事項を適切に組み合わせて表現する力を育てていくことが重要である。

③は、外国語指導助手と二人の中学生による、「職場体験」についての対話を題材とした問題である。(1)は、本文中の空所に入る最も適切な英文を選び、対話を成立させる問題である。正答率はA、Cがそれぞれ約7割、Bが約4割であった。対話の内容を理解し、流れに即したやり取りができるように、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動に日常的に取り組んでいくことが求められる。(2)は、対話の内容を理解し、必要な情報や概要を選ぶ問題で、正答率は約5割であった。対話の内容を部分的に捉えるのではなく、全体の概要を把握しながら読み進めることが重要である。

④は、高校生による、「プラスチックゴミ問題」についての発表を題材とした問題である。(1)は、発表の内容に合うように、要約文の空欄に適切な英語を書く問題で、正答率は、ア、ウがそれぞれ約9割、イが約7割であった。(2)は、発表の内容についての質問に英語で答える問題である。正答率は、1、2がそれぞれ約2割、3が約3割であった。いずれも、代名詞を正しく用いていない誤答や、解答箇所以外を抜き出し

ている誤答が多かった。(3)は、本文の内容に対する自分の考えを、まとまりのある英文で書く問題である。内容が不十分なものや、冠詞や前置詞などの語の不足による減点が多く見られた。無解答も多かった。自分の考えや気持ちなどを整理して、状況に応じて、まとまりのある文章で適切に表現する活動を継続して行っていくことが重要である。

⑤は、高校生が、自分の体験をもとに行った、「読書を通して広がる学びの可能性」についての発表を題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように、与えられた語句に続く適切な表現を選び、英文を完成させる問題である。正答率は、ア、エがそれぞれ約4割、イが約6割、ウが約5割であった。(2)は、下線部の理由を日本語で説明する問題である。正答率は約1割で、無回答も多かった。下線部中の「one easy way」に対する理解が不十分であることから、その理由を示す部分を読み取ることが困難だったと思われる。文章全体の展開を捉えて概要を把握する力や、前後の英文どうしの関係を正しく読み取る力を付ける必要がある。(3)は、本文の内容と合うように、英文の空欄に入る適切な語を選び、要約文を完成させる問題である。正答率は、アが約4割、イが約7割、ウが約3割であった。本文全体から話の流れを捉えて、適切な語を選択することが求められる。

英語では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、英文の概要や要点を正確に理解する力や、自分の考えや気持ちなどを整理し、状況に応じて、まとまりのある文章で適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	
①	(1)	ア 3	90.6	④	(1)	ア 2	87.3	
		イ 3	64.4			イ 2	73.7	
		ウ 3	76.1			ウ 2	87.9	
	(2)	ア 3	52.3		ライディング	1 3	22.0	
		イ 3	61.9			2 3	24.5	
		ウ 3	18.8			3 3	29.9	
	(3)	ア 3	90.3		(3)	6	平均点 2.0	
		イ 3	67.6			20語以上の英語で、自分の考えを書く。		
	(4)	3	英文と質問を聞いて、それに対する自分の考えを英語で書く。		平均点 1.7	⑤	(1)	ア 3
	(1)	ア 2	47.2	ライディング	イ 3			64.2
		イ 2	61.1		ウ 3			48.7
		ウ 2	61.8		エ 3		40.9	
(2)	2	英文の意味が通るように、適切な語を選ぶ。	51.4	(2)	4		下線部の理由を日本語で説明する。	14.5
	1 3	平均点 1.3	(3)	ア 3	43.3			
2 3	平均点 1.2	イ 3		70.3				
③	(1)	A 3	68.6	ライディング	(3)		ウ 3	32.0
		B 3	39.5				本文の内容と合うように、英語の要約文の空欄に入る適切な語を選ぶ。	
		C 3	71.1					
	(2)	2	対話を読み、対話が成立するように空欄に入る最も適切な英文を選ぶ。	51.6				
		2			対話を読み、必要な情報や概要を選ぶ。			